

日々の

暮らしに

香川芳子 香川栄養学園学园长

え／目黒雅也

花火で思い出す

花火は夏の風物詩ですが、私は自宅の屋上に上がって東京湾や隅田川の花火を遠くながめるくらいです。子どもが小さいときには庭で線香花火などをして楽しみました。今年で終戦から71年目になります。今年で終戦から71年目になります。空襲で校舎や寮、自宅は焼失し、戦後の母・綾は学園の復興に奔走していました。そんな中、新宿駅を出て闇市が続くあたりで、母が初めて革靴を買ってくれました。その喜びは今でも忘れられません。それまでは普通のゴム底靴、ずっとです。当時は東京女子医科大

学の子科生でした。学生時代は東京大学の医学生が活動している亀有セツルメントにも積極的に参加しました。亀有には戦後、外地から引き揚げてきた人々が暮らす住宅がありました。1世帯ごとに広いひと間が与えられ、生活は貧しく、衛生的にも問題がありました。1本のタオルを家族みなで使うのでトラコーマなどの目の病気が蔓延していたのです。薬は高価で買えませんので、私たち医学生が粉薬を入手して溶液とし、容器に入れて渡す活動もしました。その目薬をさすとすぐによくなるのでたいそう感謝されました。

※セツルメントとはボランティア活動の一種で、スラム街などに居住して生活改善にかかわる社会活動。亀有（東京）、氷川下（東京）、川崎（神奈川県）などのセツルメントが有名。